

問1 藤原道長の家系を示す記録において、娘の彰子が一条天皇の后となり、さらに別の娘である威子が後一条天皇の、嬉子が後朱雀天皇の后となっている状況から読み取れる、藤原氏が長期間にわたって権力を維持できた理由として最も適切なものはどれですか。（2022年 熊本県公立入試 類似）

- 複数の娘を異なる天皇の后にすることで、どの代の天皇に対しても常に母方の親戚という優位な立場を確保し続けたから。
- 娘を天皇の后にすることで、武士の勢力を抑え込むための軍事的なネットワークを朝廷内に構築したから。
- 娘たちがそれぞれ別の荘園を管理することで、藤原家全体の経済基盤を分散させ、財政の安定を図ったから。
- 天皇を退位させて上皇とし、院政を開始するための準備として娘たちを宮中に送り込んだから。

問2 平安時代初期、最澄が唐で学び、比叡山に延暦寺を建てて広めた仏教の宗派として正しいものはどれですか。（2024年 香川公立入試 類似）

- 天台宗
- 真言宗
- 浄土宗
- 時宗

問3 12世紀の日本と諸外国との貿易に関する記録には、ある人物が航路や港を整備して貿易を拡大させたことが記されています。この人物が、武士として初めて就任した最高官職の名称として正しいものはどれですか。（2024年 宮城県公立入試 類似）

- 天皇に代わって政治を行う摂政
- 成人後の天皇を補佐する関白
- 朝廷の最高機関である太政官のトップである太政大臣
- 幕府を開くために朝廷から任命される征夷大將軍

問4 11世紀末、後三条天皇のあとを継いだ白河天皇は、天皇の位を退いた後も「上皇」として政治の実権を握り続けました。それまでの藤原氏を中心とした摂政や関白による政治を抑えるために始まった、この政治形態の名称を選びなさい。（2016年 山形県公立入試 類似）

- 院政
- 摂関政治
- 親政
- 武家政治

問5 平安時代中期、藤原道長は自身の娘を次々と天皇の后（きさき）として送り込み、その娘が生んだ子が天皇に即位すると、自らは天皇の母方の親戚として政治の実権を握りました。このような立場を指す言葉と、道長やその子の頼通が行った政治体制の名称として正しい組み合わせを選びなさい。（2024年 奈良公立入試 類似）

- 外戚（がいせき）の立場を利用した、摂関政治
- 院（いん）の立場を利用した、院政
- 執権（しっけん）の立場を利用した、合議制の政治
- 將軍（しょうぐん）の立場を利用した、幕府政治

問6 歴史上の人物の事績をまとめた資料において、弟子の円仁に関連する項目の中で「比叡山に延暦寺を建てて天台宗を広めた師」として紹介される僧侶の名前と、その人物が開いた宗派の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2024年 山形公立入試 類似）

- 最澄 — 天台宗
- 空海 — 真言宗
- 最澄 — 真言宗
- 空海 — 天台宗

問7 平安時代の遺跡から出土する青磁（陶磁器）は、当時の文学作品の中にも、貴族の生活を彩る貴重な品物として描写されることがあります。このように、中国の大陸から輸入された品物を取り入れつつも、日本の風土や好みに合わせた独自文化が発達した時代の文化を何と呼びますか。（2024年 栃木公立入試 類似）

- 飛鳥文化
- 天平文化
- 弘仁・伴野文化
- 国風文化

問8 平清盛が行った、武家政権としての経済的な基盤を強化するための政策として最も適切な説明を、次の中から選びなさい。（2026年 埼玉公立入試 類似）

- 現在の神戸市にあたる大輪田泊を修築し、中国の宋との貿易を積極的に進めて富を蓄えた。
- 全国に守護と地頭を設置し、各地の軍事権と警察権を掌握することで徴税を安定させた。
- 有力な御家人による合議制を導入し、裁判の公平性を高めることで経済活動を活性化させた。
- 新皇と自称して関東に独自の朝廷を樹立し、地方独自の税制を確立しようとした。

問9 現在の京都の市街地には、二条や三条といった数字を用いた通り名が残っており、南北と東西の道路が直角に交わる「碁盤の目」のような整然とした街路が見られます。このような都市計画のモデルとなった中国の唐の都と、この都を建設した天皇の組み合わせとして正しいものはどれか。（2022年 岐阜公立入試 類似）

- 唐の都：長安、天皇：桓武天皇
- 唐の都：洛陽、天皇：聖武天皇
- 唐の都：長安、天皇：天武天皇
- 唐の都：北京、天皇：桓武天皇

答え合わせ・解説

問1	答え 1 複数の娘を異なる天皇の后にすることで、どの代の天皇に対しても常に母方の親戚という優位な立場を確保し続けたから。	道長は複数の娘を複数の天皇に嫁がせることで、どの天皇が即位しても自分が「天皇の祖父」や「天皇の叔父」という外戚の立場になれるよう画策しました。これにより、一過性の権力ではなく、世代を超えて摂政や関白の職を藤原北家が独占できる仕組みを作り上げ、全盛期を築きました。
問2	答え 1 天台宗	最澄は遣唐使とともに唐に渡り、帰国後に比叡山延暦寺を拠点として天台宗を広めました。同時期に空海が伝えた真言宗とともに、当時の貴族社会に大きな影響を与えました。浄土宗は鎌倉時代に法然が開いた宗派、時宗は一遍が開いた宗派であり、時代が異なります。
問3	答え 3 朝廷の最高機関である太政官のトップである太政大臣	平清盛は、現在の大輪田泊（神戸市）を修築するなどして日宋貿易を積極的に推進し、莫大な経済力を蓄えました。その背景には、武士として初めて太政大臣という高い地位に就き、朝廷において大きな発言権を得たことがあります。源頼朝が就任した征夷大将軍とは異なる、伝統的な官位制度の中での最高職を目指したのが特徴です。
問4	答え 1 院政	白河天皇が1086年に譲位して上皇となった後、独自の政務機関（院庁）を設けて政治を行ったことが始まりです。これは、天皇の母方の親戚（外戚）として権力を握っていた藤原氏（摂関家）の影響を排除し、天皇家自身が主導権を取り戻す目的がありました。
問5	答え 1 外戚（がいせき）の立場を利用した、摂関政治	藤原氏は、自分の娘を天皇の后にし、その間に生まれた子（自分の孫）を次の天皇に立てることで、天皇の母方の親戚である「外戚」として大きな影響力を持ちました。この手法によって、天皇が幼少の時には「摂政」、成人してからは「関白」という職に就き、政治の実権を独占する摂関政治を確立しました。藤原道長とその子の頼通の時代に、この政治体制は全盛期を迎えました。
問6	答え 1 最澄 — 天台宗	比叡山に延暦寺を建てたのは最澄であり、その宗派は天台宗です。同時期に活躍した空海は、高野山に金剛峯寺を建てて真言宗を広めました。最澄の弟子である円仁などは後に唐へ渡り、師の教えをさらに発展させて日本の仏教界に大きな影響を与えました。
問7	答え 4 国風文化	894年の遣唐使廃止後、日本は大陸の文化をただ模倣するだけでなく、それらを日本の生活や好みに合わせて消化・吸収しました。これを国風文化と呼びます。紫式部の『源氏物語』は、当時の輸入陶磁器である青磁などの豪華な生活用品や、寝殿造の住宅を舞台とした、この文化の最盛期を代表する作品です。
問8	答え 1 現在の神戸市にあたる大輪田泊を修築し、中国の宋との貿易を積極的に進めて富を蓄えた。	平清盛は、武力だけでなく経済力も重視しました。現在の神戸市にある大輪田泊（兵庫の港）を大規模に改修し、中国の宋との間で日宋貿易を推進しました。この貿易によって大量の宋銭や高級品がもたらされ、平氏が権勢を誇るための大きな財源となりました。
問9	答え 1 唐の都：長安、天皇：桓武天皇	平安京は、当時の中国（唐）の都であった長安をモデルにして設計されました。北端に天皇の住まいである内裏を含む大内裏を配置し、そこから南へ伸びる朱雀大路を軸に、東西・南北に規則正しく街路を走らせる「条坊制」が採用されました。この特徴的な街路は、現在の京都市の地名や道路網にも大きな影響を与えています。